

新潟野球交流事業に参加して

阿南市あかつき野球・ミラクル中林バイブルス合同チーム

監督 田上宏幸さん(宝田町)

あかつき野球連盟から連絡があった。新潟市と野球による交流を行うので、あかつき野球の選手でチームを編成し参加してほしい、とのことだった。

毎週日曜日の午前6時半から、気の合う仲間と野球を楽しんでいる。そのすがすがしさは、早朝野球をしたことのない人には分からないだろう。朝早く起きることは眠たいしつらいが、好きな野球のためなら辛抱できる。いったん起きてしまえば何てことはない。

聞くところによると、阿南市が交流しようという新潟市の早起き野球(新潟市では早朝に行う野球を早起き野球という)は、チーム数が200と全国最多で、レベルも相当高いと思われた。相手にとって不足はない。バスで10時間もかかる遠隔地だが、参加させていただくことにした。

新潟市との交流は、市の職員が研修で新潟市を訪れたことがきっかけで始まったという。選抜高校野球大会出場を決めた佐渡高校が、阿南市で直前の合宿をするなど、野球がとりもつ縁で両市の交流が深まっている。阿南市から新

潟市に向くのは今回が初めて聞き、責任の重さを感じた。

参加したのは野球チームだけでなく、阿波踊り連の奴連や物産・観光PRとして阿南商工会議所や市商工観光労政課の職員なども参加した。総勢約50人。多彩な顔ぶれで賑やかな旅となった。

初日の8月4日は、新潟まつりのパレードに参加した。炎天下のなか、奴連を先頭に街路を行進。初めて見る阿波踊りに感動したのか、沿道の観客から大きな拍手や歓声が送られた。踊り子たちは汗びっしょりになりながら声援に応えた。気が付けば1キも歩いていたら、奴連の皆さん、本当にお疲れさまでした。

午後からは、早起き野球チーム「ホットショット」との交流試合を楽しんだ。横手善仁投手の力投と打線がつながり、6対0の圧勝だった。翌日は、新潟大会で優勝した重川材木店チームと対戦した。追いつ追われつの接戦となり、迎えた最終回の攻撃、2ランエン

ドランを決めるなど3点を取り、逃げ切ったかに思われた。が、その裏、相手の猛反撃にあい、1点差まで詰め寄せられた。その時だった。観客席から太鼓と笛の音が聞こえてきた。奴連の皆さんが応援に駆けつけてくれたのだ。応援に力をもたらした私たちは、その後立ち直り、絵に描いたようにピシヤリと抑えた。両チームがエールを交換した後、奴連がグラウンドに踊り込み、球場は阿波踊り一色に染まった。

県外での野球交流に初めて参加させていただき、いろいろな人と交流を深めることができた。人気の高い野球で地域振興を図るといふ狙いに共感した。来年は阿南で交流する。新潟の皆さんも「必ず行きます」と言ってくれた。その日を楽しみに待っていたい。

